



THE INTERNATIONAL ASSOCIATION OF Y'S MEN'S CLUBS

REGION 9 ワイズメンズクラブ国際協会西日本区  
JAPAN WEST

## 2017-2018 年度 地域奉仕・環境事業通信

NO.6

2018年 5 月 10 日



### 地域奉仕・環境事業主任 吉田由美(大阪なかのしま)

一人一人が、社会への奉仕を行う道具としての意識を持ちましょう  
理解されることよりも理解することを  
愛されることよりも愛することを望めるように

### 『世界マラリアデー』イベントに参加して

#### さらなるRBM事業 ゼロマラリア実現を目指してワイズが出来ること

2018年4月25日、上智大学にて開催された『世界マラリアデー2018』イベントに参加いたしました。偶然とも思える MNMJ (マラリア・ノーモアジャパン) 専務理事、水野達男氏との出会いにより、私たちが続けてきたRBM事業との接点を見つけ、コンタクトを取ってイベントを知ったからです。私には偶然の繋がりでしたが、東日本区では国際・交流事業主任 進藤重光ワイズを中心として、昨年よりRBM事業と目的を同じにする MNMJ への協力、協働を始めておられました。

東西日本区ワイズメンが力を合わせて取り組む事業であるRBM。その意義深さを再認識するために、レポートさせていただきます。

マラリアは結核、HIV エイズと並んで三大感染症の一つで、年間2億人以上の罹患者があり、毎年42万人ちかくが命を落とします。つまり2分に一人の割合で死亡する恐ろしい病気です。私たちが行っているRBMに対する支援は、今から9年前 2008年、国連からの呼びかけに、ワイズメンズクラブ国際協会が応えて、10月24日(国連デー)に行い、当初は単年度の事業でした。その後2010年から毎年続けられ、昨年ワイズメンズクラブ国際議会に於いてRBM事業のさらなる延長が決められました。現在は2020年までの事業となっております。

マラリアは、かつての日本では、普通に身近に存在していました。

**malaria**  
**NO MORE**  
japan



古くは「おこり（瘧）」と呼ばれて、日本史上も平清盛をはじめ、様々な人物がマラリアとみられる病気で亡くなっています。明治から昭和初期には、全国でマラリアが流行しました。明治期の北海道開拓のとき、多くの人の命を奪ったのはマラリアでした。本州では琵琶湖のある滋賀を中心に、福井、石川、愛知、富山で発生しましたが、福井では大正時代に毎年 9000～2 万 2000 人以上の患者が報告されました。戦後もアジアから帰国した元

兵士の間でマラリアは流行しました。

しかし、戦後の徹底した感染症対策により本州では 1950 年代、そして最後まで残った沖縄でゼロマラリアが宣言されたのが 1962 年です。とりわけ沖縄のマラリア制圧は住民の積極的参加と組織的なマラリア制圧戦略と、今も見習うべき要素はたくさんあります。日本には、ゼロマラリアを実現した「経験」があるのです。

世界では、2008 年より 2017 年までの 10 年間で、年間の死亡者が 100 万人から 42 万人まで 58% の減少にこぎつけました。しかしこの数年の減少率は緩やかになり、結果が出ていません。防虫剤や防虫ネットに対して蚊の耐性が出てきていることも報告されており、対策への更なる努力を求められています。治療方法の確立や、予防技術の進歩を促さなければなりません。

地球温暖化によりマラリアは、確実に、蔓延の方向に向かいます。近年私たちの周辺でも、セアカゴケグモの発見や、やぶ蚊によるデング熱の発生など、日本のグローバル化に比例して新たな脅威が迫っています。MNM（マラリア・ノーモア）は、ゼロマラリアを目指すグローバルネットワークです。2040 年までに世界のマラリアをゼロにすることを目指し、アメリカ、イギリス、日本などに拠点を持ち、世界各国で事業を展開しています。



私達が 2008 年より行ってきた RBM 事業は、「持続可能な開発目標（SDGs）」のための重要な働きの一つとなっています。また、特筆すべき点として、本事業が浅羽俊一郎氏（元国連難民高等弁務官 駐日地域事務所副代表・東京山手ワイズメンズクラブ）からの発案で国際的な UGP（Unified Global Project/ワイズメンズクラブ国際協会の認識度アップを



願う国際レベルの統一 5 カ年事業）として決定されたものであり、いわば日本発のプログラムでもあることです。西日本区ワイズメンとして、東日本区ワイズメンと力を合わせて、この素晴らしい事業へのさらなる協力を、継続しようではありませんか。

地域奉仕・環境事業主任としての務めも残りわずかとなったこの時期に、MNMJ との出会い、東日本区ワイズメンとの協働が叶ったことが、今後の私自身のワイズ活動に良い影響を与えてくれるであろうことを感謝して、最後の主任通信とさせていただきます。